

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

今年度6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、先日桑名市全体の結果の概要が発表されました。詳細な分析については桑名市ホームページをご覧ください。




*桑名市ホームページ 子育て・教育>学校教育>教育委員会>教育総合(計画・統計等)>
令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果概要

-注意- 「子育て・教育」はトップページには掲載されていません。「情報検索メニュー」をクリックしていただき、「子育て・教育」へお進みください。

ここでは、本校の傾向と今後の方針についてお知らせします。この調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、6年生の結果がそのまま多度中小学校全体の学力や学習状況を表すわけでもありませんが、調査結果の分析や児童の実態把握をもとに、今後の授業や指導の改善に努めていきます。本校においては、4月の調査後、教職員で子どもたちの解答を採点・分析し、夏季休業中に全教師が集い授業改善に向けた研修会を実施しました。

また、「児童質問紙」をもとにした学習状況の調査においては、家庭学習や読書等の重要性も明らかにされています。家庭での学習習慣や生活習慣の確立、読書活動の推進などにおいて、学校と家庭・地域の協力や連携をさらに強めていきたいと考えています。今後とも、子どもたちのためにご支援・ご協力をお願いいたします。

本校の結果概要

国語	
良かった点	課題となる点
 <p>○知識・技能のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高い。特に、日常よく使われる敬語の理解が非常に高い。</p> <p>○思考・判断・表現力のうち、「読むこと」の正答率が非常に高い。また、「話すこと・聞くこと」の正答率も高い。</p> <p>○「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」97.2%(全国93.0%)</p>	<p>▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手。また、情報と情報との関係づけを苦手としている。</p> <p>▲問題文をきちんと読み込めておらず、適切な解答ができていない答案が目立つ。</p>
算数	
良かった点	課題となる点
 <p>○計算、数量変化の読み取り、図形の特徴等、基礎的な知識・技能は一定の理解が認められる。</p> <p>○「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」98.6%(全国93.3%)</p>	<p>▲立式が難しく、考え方や求め方を正しく説明することが苦手。</p> <p>▲記述式解答が苦手。</p> <p>▲問題の意味が理解できておらず、何が問われているかわからずに解答しているケースが多い。</p>
理科	
良かった点	課題となる点
 <p>令和5年度は実施されておりません。</p>	<p>令和5年度は実施されておりません。</p>

児童質問紙から

良かった点

- 人の役に立つ人間になりたいと思う。98.6% (全国95.9%)
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。98.6% (全国96.9%)
- 人が困っているときは、進んでたすけている。97.2% (全国91.6%)
- 道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。95.7% (全国83.6%)
- 先生は間違えたところやわからないところについてわかるまで教えてくれる。94.4% (全国93.0%)
- 将来の夢や目標を持っている。88.8% (全国81.5%)
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。80.3% (全国76.5%)
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。80.3% (全国77.4%)
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。60.6% (全国49.9%)

課題と思われる点

- ▲朝食を毎日食べている。91.6% (全国93.9%)
- ▲平日に学校の授業以外に一時間以上勉強をする。47.9% (全国57.1%)
- ▲読書は好き。67.6% (全国71.8%)
- ▲学校の授業時間以外に平日読書を全くしない。26.8% (全国24.5%)

分析と今後の方針

【国語の授業において】

書く力の向上が急務の課題であると思われます。国語のみならず、ふり返し活動の中に書く作業を取り入れ、自分の考えを文章に置き換える習慣を身に付けていきたいと考えています。ICT活用により、何度でも加除修正できる環境をフル活用したいところです。近年の国語では、図表などの関連付けが重視されていますから、教科横断的な学習場面の設定を増やしているところです。また、会話力をつけるために、インタビュー等の経験を積んでいきたいと思えます。会話を円滑に行うことができるよう、日常場面で私たち大人は、良い意味で「分からず屋」になる必要があります。子どもが困っているときに「こういうことを言いたいんだね」と代弁してしまうと、子どもはYESかNOしか答えられません。「どうしたの?」「何を伝えたいの?」と問えば会話力向上につながります。発達段階に応じて、思いを伝える力を高めていきたいと思えます。

【算数の授業において】

表現力や記述する力を向上させたいところです。学校では、ペア学習やグループ学習の中で、計算方法の紹介を相互交流したり、図表の解析、作図などを効率的に行ったりします。一見真面目な姿勢で机に向かっていても、実は要領を得ずに困っている状態の子がいてはいけません。対話を重ねることで、自分なりの表現をし、よくわからない事柄について「教えて」が言える授業づくりをします。今回の学力テストだけでなく、日常のテストでも「問題を正しく読めず、その結果求められている事柄についての解答ができない。」という実態があります。問題の読み取りは国語力も必要ですが、効果的に必要な情報をピックアップする能力も必要だと思われます。そのため、算数では必要な情報の取り上げ、異なる情報の関連付けなどを大切にしていきたいと思えます。

【学校質問紙から】

全国学力・学習状況調査には、学校に対する質問紙調査もあり、その回答を全国の集計結果や児童質問紙の集計結果と比較することで、学校の特徴の一部を確認できました。

学校では「学校生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導をおこなっている」と回答しました。児童の「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」がそれぞれ高水準であることが確認でき成果が表れていると判断しています。

一方、「家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体的に挙げながら教えるようにした」と回答しましたが、児童は「学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強する」と回答した割合は全国平均より低い値にとどまっています。家庭学習の重要性はこれまでも児童に伝えてきましたが、あらためて全学年に「多度中学校区家庭学習の手引き」をもとに定着を図ります。

【児童質問紙から】

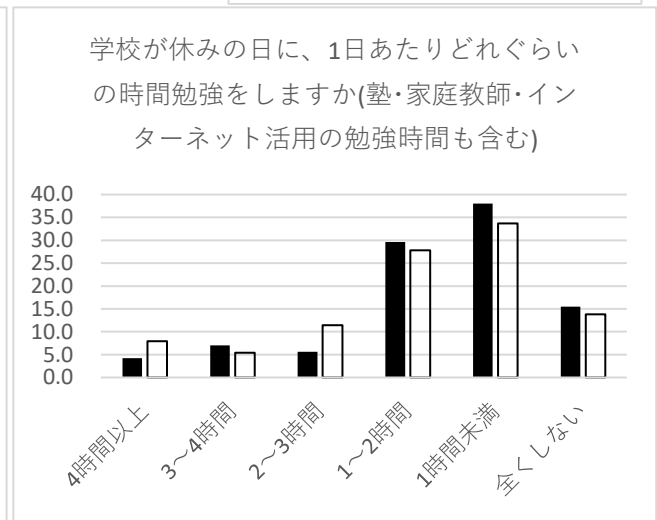
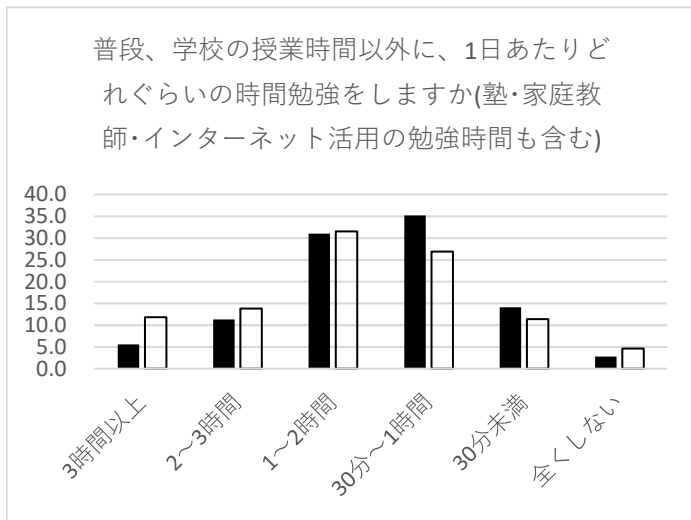
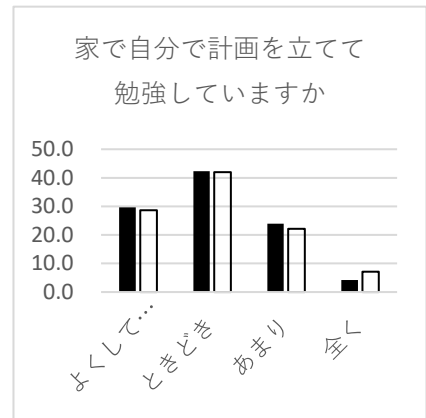
(1) 基本的な生活習慣について

「朝食を毎日食べている」91.6%は高水準に見える値ですが、6年生75人のうち6人は常態的に朝食をとらずに登校しています。もしこの値が全校的なものだったとしたら、全校児童のうち30人程度がエネルギー補給をせずに学校の活動に向かうことがあるということを含意し、学校としてはこれは看過できません。「早寝・早起き・朝ご飯」について、今一度、保護者の皆様のご協力をお願いします。

(2) 家庭学習・読書習慣等について

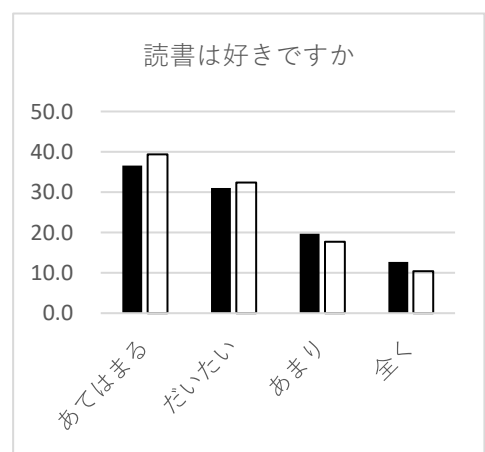
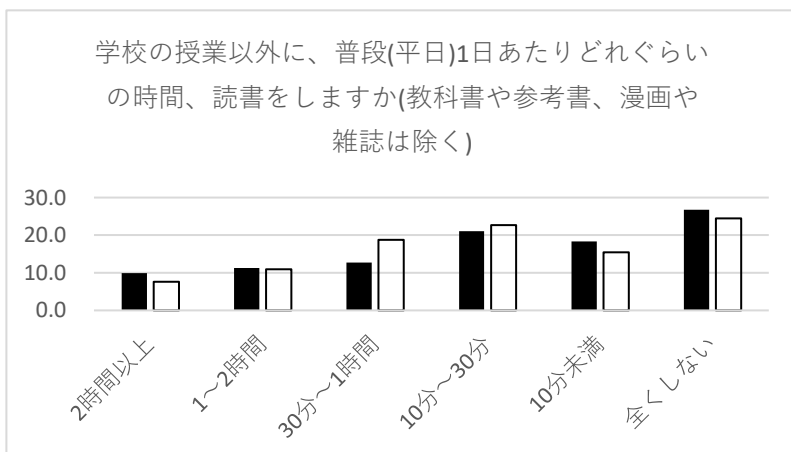
「家で自分で計画を立てて勉強している」71.9% (全国70.7%) は、前年度調査と比較すると10%程度低下しています。また、前述したように、「学校の授業時間以外に一時間以上勉強した」と回答した児童は47.9% (全国57.1%) でした。

多度中学校区「家庭の学習の手引き」では「10分×学年+10分」を家庭学習時間の目安にしています。学習習慣が定着するようご協力をお願いします。



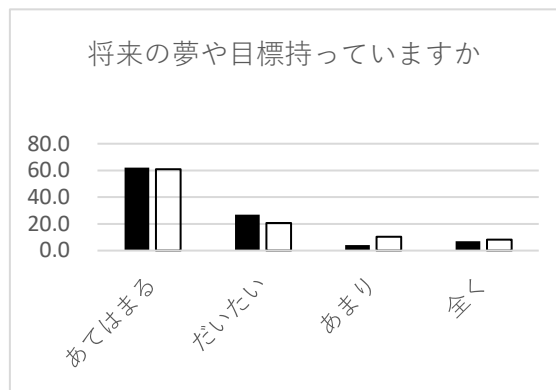
また、「読書は好き」と回答する児童は67.6 (全国71.8%)。本校数値は昨年度よりも14%程度上昇しており、全国平均に迫っています。読書時間も少しずつですが増えているようです。読書環境が整っているほど学力に良い影響があると言われています。学校では、図書委員や、学校図書館ボランティア(ブックパートナー)さんとも協力して、図書室の整備や図書の紹介に努め、読書好きをより一層増やしていきたいと思えます。ご家庭におきましても、蔵書を増やしたり、一緒に図書館を利用して本を借りたり、読んだ感想を言い合ったりするなど、読書習慣の定着にご協力をお願いします。

さらに、新聞を読む回数が多い子どもほど、学力調査の正答率が高くなるという傾向が見られるようです。本校では、新聞を読む習慣を身に付けるために、「週刊こども新聞」を2紙、5・6年生に回覧後、図書室に置いています。今後も新聞に親しめるような環境作りに努めていきます。



(3) 夢や目標について

「夢や目標を持っている」88.8% (全国81.5%) という数値は、大変嬉しいものでした。ご存じのように、本校の教育目標「夢に向かい、『幸せに生きていく力』を育む」を目指して日々指導している私たちですから、この数値が諸々の働きかけの成果となります。もちろん、学校の指導だけでなく、ご家庭でも夢や目標について語る場面を作ってもらっていることでしょう。将来の夢、近未来の目標について今後も語っていただけると幸いです。



(4) 家庭でのゲーム機、情報機器にふれる機会について

今年度の調査では、家庭でのゲーム機、情報機器に触れる機会に関する設問がありませんでした。昨年度の調査では、「平日に1時間以上ゲームをする」と回答した児童は、60.2% (全国50.6%)。また、「平日に1時間以上SNSや動画視聴などをする」と回答した児童は、81.9% (76.1%) となっており、どちらも全国より高くなっていました。スマホやタブレットの普及、コロナ禍で変わってしまった生活習慣等が影響し、全国的に見てもゲーム機や情報機器に触れる時間は長くなる傾向にあります。子どものうちにゲーム依存や健康障害に陥らないよう、使用時間や使い方を制限する必要があると思われます。

各家庭で、使い方のルールを決めていただいていると思います。近年、情報漏洩、SNSトラブル、情報機器を利用した犯罪等は社会問題となっています。「うちの子にはちゃんと言ってあるから大丈夫」の考えは危険です。闇バイトを例に挙げると、実行するまで、場合によっては捕まるまで自分の行為が犯罪と認識していないケースもあります。「そんな大げさな」と思える段階にこそ、定期的かつ適切な指導が必要だと思えます。学校では折に触れ指導していきますが、ご家庭でも話題にしていきたいところです。

昨年度までの3年間、新型コロナウイルス感染症による様々な施策により、学校生活や家庭生活において不自由を感じる事が多々ありました。今年度、諸々の制限が解除され、学校や地域の諸行事や取組も元の形に戻りつつあります。しかし、人との関わりが制限された3年間、自由に声を出せなかった3年間の代償は大きく、対人関係を上手く構築できない児童や自己表現ができない児童が増えてしまったと感じています。今年度は、人との関わりを大事にした教育活動を展開していますが、まだまだ挨拶すら適切にできない児童もいます。朝、旗当番で立っていただいた際に、挨拶はおろか視線も合わない児童に出くわす場面があるのではないのでしょうか。このことを、誰かのせいにしていても解決しません。強いて言えば、コロナ禍の社会状況が成長の機会を奪ってしまったのです。であれば、私たち大人がモデルになり、人と関わる意義や喜びについて教えていくべきですね。98.6%もの児童が「人の役に立つ人間になりたい」と考えているわけですから、対人関係の築き方を知ることによって大きく飛躍すると信じています。

児童の意欲に負けないよう、私たち教職員一同はさらに研鑽を積んでいきたいと思えます。これには保護者の皆様のご理解ご協力が不可欠ですので、今後とも児童育成のパートナーとしてよろしくお願ひします。

本誌掲載のグラフについて

棒グラフの、■(黒)は本校の値、□(白)は全国の値を表します